

# 風のよう

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

ヨハネによる福音書1:14

## 【説教要旨】

新年おめでとうございます。

私たちが生きている時代は、自分をはっきりと自分で決めていかなければ、つまり軸足を決めていかなければ、大きな激変する時代の波に翻弄されると思います。教会も同じです。教会が教会として生き方をはっきりと軸足を決めなければ教会は消えていくと感じています。自分たちの軸足をしっかりと決めようとしたのが、初代教会の時代です。その軸が信仰告白、使徒信条、ニケア信条であり、聖典結集の作業でした。それは数百年をかけての教会の営みでした。今の時代はいっぽう数百年もかけられない現実もありますが、しかし、こういう時だから、ここは、落ち着いて時間をかけなければいけないという現実もあります。

今日の聖書の箇所はキリスト教の信仰の中心で「イエス・キリストがまことの神にしてまことの人」あると私たちに語るのです。

「肉」という表現に注目したいのです。死の陰にたち、罪の汚れにある弱くはかない人間存在をしめしているのです。神が、イエス・キリストが罪の汚れにある弱くはかない肉となるれるということです。驚くべきことです。神は、「言」であられるイエスにおいて、そのような人間的な弱さ、はかなさの極みに至るまで、私たちと一つになられ、共に生きられたというの

です。イエスさまは、肉の罪、弱さを抱えた私たちのただ中にこられた。これがクリスマスのメッセージです。

凍てつくロシアの地、クリスマスのとき一人の囚人、ドストエフスキイ、彼はシベリアに送られる途中の留置所で肉となられたイエスに出会います。打ちひしがれて絶望にさいなまれた囚人、ドストエフスキイを見た看守は、こう語りかけます。

「そこの若いの、辛抱しなけりやあいけないよ。キリストもお苦しみになつたんだから」、次の朝、教会の婦人がシベリアにいく流刑者を訪ね聖書を渡します。彼はこの一冊の聖書をシベリアの極寒の中で読みます。

「自分は、心打つ真実なもの。魂のそこから搖さぶってくれるもの。これと一緒に、立ったり倒れたり、生きたり死んだりしたい」と日記に記しています。

キリストは、肉のなかで罪と弱さに絶望しているドストエフスキイに看守を、一冊の聖書をもつた教会の婦人を送り、いやキリストご自身が彼のもとところまで歩み寄って来てくださる。共に歩み、支え、道を開いてくださるのです。実は人間が罪深く、弱くはない極みに立つことは絶対なる神の憐れみに出会うことには他ならないのです。

肉となられたイエスに出会うことこそ、現実の大きな課題を越えていきます。現実だけみると絶望しかない、諦めてしまう他ないかも知れない。しかし、この現実にイエスがお立ちになられているのです。「自分は、心打つ真実なもの。魂のそこから搖さぶってくれるもの。これと一緒に、立ったり倒れたり、生きたり死んだりしたい」という力強さを回復し、軸が定まっていくのです。

「わたしたちの間に宿られた。」という言葉ですが、「天幕を張った」というのが直訳です。遊牧民が天幕を張りながら旅をし、生活をしたように、イエスさまが、私たちの人生の旅にあって一緒に天幕を張り、生活してくださいます。私たちは一人ではない。孤独ではない「そこの若いの、辛抱しなけりやあいけないよ。キリストもお苦しみになつたんだから」とドストエ

フスキーに語りかけ、看守の言葉は、実はイエス・キリストの言葉でした。また、聖書を届けてくれた夫人はイエス・キリストでした。「**わたしたちの間に宿られた。**」イエス・キリストが私たちと共に歩んでくださいます。

「**恵みと真理とに満ちていた。**」と結んでいます。イエスが肉となられるということ、つまりクリスマスのメッセージの中心は、神の恵みと真理が私たちのうちに満ち満ち溢れているということです。ヨハネが伝える真理とは、「神は愛である」ということです。神の恵みと真理、つまり神の恵みの愛が満ち満ち溢れているということであり、私たちは神の恵みと真理、つまり神の恵みの愛、この内を生きているのです。

主は聖なる御腕の力を／国々の民の目にあらわにされた。地の果てまで、すべての人が／**わたしたちの神の救いを仰ぐ。**イザヤ書

人間の罪、弱さ、はかなさの極みを生きたイエス・キリストでした。しかし、そこに隠されている真実、**わたしたちの神の救いを仰ぐこと**であり、栄光を見るのです。「**わたしたちはその栄光を見た。**」とあるように。

私たちはまたこの栄光の光に導かれ、希望を与えられ、前進していく強さを激変する時代にあって右往左往している私たちに与えられているのです。

時代のムースピード激変する流れの中で、生きています。しかし、変わらない、揺らぐことのない軸がある。「まことの神にしてまことの人」であるイエスさまが恵みと真理（愛）をもつて今日も私たちと共にいてくださるという信仰の軸です。

神が共にいる。インマヌエルというこの真実を私たちに私示されたのが、この方、イエスキリストの思いがけない訪問こそクリスマスです。

全能なる神の無限の憐みが／私たちのもとにきたりたまい／ひとりのみどりご、神の子の姿となって／私どものところへ降りたまいました。／ひとりのみどりごが、私たちの人生を手中にしておられるのです。（ディートリッヒ・ボンヘッファーの言葉）

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



2026年も時代の大きな変化は、変わらないで  
しょう。

皆さんも知っていると思いますが、奥田知志は、ホームレス支援をしているバブテスト教会牧師で、佐藤優氏は、同志社神学部を出たクリスチヤンです。キリスト者の目を通して「2025年12月24日「2025年 クリスマスマッセージ」奥田知志牧師宣教 東八幡キリスト教会 クリスマスイブ燭火礼拝」、「反町理のそこが聞きたい！！ 佐藤優」の二つのユーチューブは、今の時代とこれから起こるかも知れないことについて話しています。奥田牧師は、これから外国人労働者の排斥から日本の国内の自分たちと違う人を排斥していくでしょうと危機を語っています。佐藤さんはこの危機の中でこそ希望があると語っています。まさに、パウロです。苦難は、忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を。希望は失望に終わることはない。ローマ書5：3～5」。こういう時代が現代社会です。

パウロは続けます。「私たちに神は愛を示されました」。ここに生きていくのが今を生きるということです。

## 園長・瞑想？迷走記

卒園写真を見ながら、年末恒例の卒園生へのクリスマスと年賀の挨拶の励ましの年賀状書きが始まりました。  
約470枚と11枚のクリスマスカードを送りました。



もらった方は、どうかしれませんが、一緒に歩んだ私は忘れないよと伝えたいのです。同行二人でなく、同行三人です。イエスさま、君、私。

引退すると、これが自腹になるので、時々、誘惑にかられます。4万円を超えるのです。もう止めるかと。「人はパンのみに生きるにあらず」と声が聞こえてきます。さて、郵便代が値上げしないことを祈りつつ、こつこつとこのため毎月貯めていくか。年末の新いつぶやきと年始の小心者の決意です。

## 日毎の糧



聖書：エルサレムよ、主をほめたたえよ／シオンよ、あなたの神を賛美せよ。

主はあなたの城門のかんぬきを堅固にし／あなたの中に住む子らを祝福してください。あなたの国境に平和を置き／あなたを最良の麦に飽かせてください。詩篇147:12～14



### ルターの言葉から

この世の権威は神が憐れみ深く、いかなる殺人も喜ばない、神の恩恵のしるしである。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

### 平和を置く

146編から150編まで、最初と最後にハレルヤの言葉が置かれる。

「神への賛美」を呼びかける。2部の特徴は10節から11節にある。『神が喜ばれるのは軍事力でなく、目にみえない神を畏れ、神の慈愛に望みを託す人たちである。・・・ヤハウエによる救いは軍備によらない、という思想は旧約聖書全体を貫く（サムエル上17:47、ホセア1:7、詩篇44:7他）。』それが『剣を取る者は剣で滅びる』（マタイ26:52）というイエスの言葉に結晶する。」①

それを受け、「あなたの国境に平和を置く」という主をほめたたえる言葉になる。

今年もイスラエルにおけるガザの攻撃はまったく、旧約聖書の教えることとは違う。人はかくも愚かである。そして、この愚かさに気づかないから、神は今日のみ言葉を私たちの中に置いたのです。「本篇のように、エルサレムに平和と繁栄をもたらす神ヤハウエを讃える詩篇は、依然として、希望の表明にとどまるのか。それとも、本篇のような作品に詠われた信仰自体に何か重大な欠落があったのか。エルサレムは平和を希求する人類の試金石であり続ける。」②

①②（「詩篇の思想と信仰VI」月本照男 新教出版）

祈り：人は愚かです。平和を実現するように人を悔い改めさせてください。

## 甘木通信

空の空、いっさいは空である。

すべてに時がある。生まれる時、死ぬ時。

### コヘレトの知恵

2026年が始まりました。私が経験したことのないような時の動きで、全ての分野で日々、変わっていく時の早さです。それは私たちの生き方を変えざるをえません。

妻が抵抗なく、スマホを使いこなしていっている姿を見るだけでも、時代は変わった。つい、以前は一向に興味も、手にもしなかったのに。若い、老人という年齢を越えて、時代の大きな変化の中で生きざるをえないのが私たちです。

江口再起牧師が、「脱構築」という言葉を使います。それまで当たり前だと思ってことについて、もう一度、それが当たり前で、真実かということを考え直してみようということを意味する言葉です。

私たちは毎日の生活の中で、今までの生き方では生きられないというしんどさを持って生活し、それが急激にやってきて、当たり前だと思っていた自分の生活を変えざるをえない、「脱構築」という作業をしなければいけないのではないかでしょうか。

こういうことが2026年も続きます。しかし、いや、だから、私たちは、私たちのルーテル教会の一歩を踏み出した言葉を大切にしたいのです。「1. われわれの主であり師であるイエス・キリストは、「悔い改めよ」などと言われたことによって、信徒の全生涯が悔い改めであることを求められたのである。」

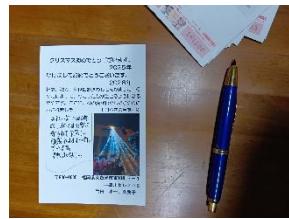
(甘木日記)土) 甘木教会。庭の掃除をk姉に手伝っていただく。一人もより、二人は嬉しい。泊。日) 最終礼拝、クリスマスの後でゆっくりと時を過ごす。午後から体調も良く、気になっていた園庭の草取りに精を出す。帰宅後、卒園生にクリスマスマッセージを兼ねて年末恒例の年賀状書きを始める。月) 幼稚園のトイレ改修してくださっている方にクリスマスケーキを届ける。火) トイレを改修してくださる方にお礼に幼稚園へ。花の水遣り。水) 除夜、深夜新年礼拝を行う。木) 新年礼拝。主任牧師とともに。説教に方向づけられる。Zoom 礼拝の回線が切れて、途中で入れ直す。金) 北九州に実家の兄の安否と確認と墓参。夜、主日準備。



## おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。

はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）甘木教会の滞在日。恒例の私が送った卒園生への年賀状書きが始まった。成長している子どもは、一人一人がまだ幼稚園時代の子どもの顔しか思い出せない。どんなに変わっただろうか。喪中にて年賀状のお断りの一枚に、「北海道大学に入学しました」という一枚。うらやましい。日）最終



の礼拝、クリスマスの後でゆっくりと時を過ごす。午後から体調も良く、気になっていた園庭の草取りに精を出す。帰宅後、卒園生にクリスマスマッセージを兼ねて年末恒例の年賀状書きを始める。月）幼稚園のトイレ改修してくださっている方にクリスマスケーキを届ける。年賀状を先に200枚購入したがさらに200枚を購入。前は色々な物をくれたが今日は領収書、17,000円のみ残念。ひたすら、卒園写真を見ながら年賀状を書く。思い出と今は何をしているか想像している。気分転換に家内の買い物に付き合う。首が痛くなり、マッサージに行く。少し年賀状のデザインを変える。火）今日も年賀状書き、ひたすら、ひたすら。年賀状が足らなくなり100枚を購入。今日はティッシュをいただく。これだけも嬉しい。トイレ改修の方の労に感謝にと幼稚園に寄る。気分転換に博多の街を家内と散歩。交差点のところにある喫茶店に入り、外を見ながらぼつそと会話。帰り、ひたすら、ひたすら年賀状書き。0時に終了。頭の興奮がおさまらず、3時まで演歌を聞いている。（笑）水）除夜礼拝、行く年、2025年、くる年2026年を礼拝の中で迎えられた感謝。お母さんのお腹にいるときから知っていたyさんがきてくださる。ご主人が転勤して久留米に来られたと。時は流れたがこういう出会いを礼拝が起こしてくれた。甘木に泊。木）元旦礼拝、主任の白川牧師も来られて共に礼拝を与えられた。命と自分の生涯は違うということに頷きつつ、自分が説教するときは、自分で語りながら、自分が聞くようにしているが、人の説教を聞くことはまた格別のみ言葉の味。インターネットが途中で切れていてzoom礼拝を途中でつなぎ直すなどイレギュラーが起こる。家内の作った善哉を食べて、礼拝後のお茶の会。クリスマスからの新年の一連の礼拝が終わり、時がよくても、悪くてもたゆまずにみ言葉を伝えていく努力をしたいと再確認した。来年はさらにみ言葉を多くの人に伝えるために、自分を磨き、またみ言葉を伝える機会を作り、その方法を考えて実行していきたい。金）大雪と言っていたが、チラつく程度で、北九州門司の先祖の墓参りに行く。小倉から門司港に向かう8番線ホームにある柏うどんにまっしぐらに行く。北九州に帰ったと実感。墓に手を合わせながら、自分はどこに葬られるのかとふと思う。小倉の街を家内と散歩、昔、入っていた一軒の食堂はなく。ぶらぶらしていると昔、入った路地にある一平というラーメン、ちゃんぽん屋さんにぶつかる。遅い昼食。安い。各駅停車で2時間かけて帰宅。

